

2016 ミニディスクロージャー誌

Mini Disclosure

平成28年9月期



人に優しい豊かな 地域社会を目指して

- 1 「農業者の所得増大」「農業生産拡大」への挑戦
- 2 JA総合力発揮による地域活性化への貢献

JAいるま野は、組合員・地域の皆さまとのふれあいを大切に、地域に根ざした事業展開を進めるとともに、幅広い暮らしの相談にお応えし、豊かな暮らしづくりをお手伝いさせていただいております。

事業のご案内

経済事業	信用事業	共済事業
<p>購買事業 農業に必要な肥料・農薬などの生産資材や、お米などの生活資材を提供しています。</p> <p>販売事業 安心・安全な農産物づくりを推進し、市場への共同出荷やJAいるま野直売所を通じて、農家の皆さまが生産した農畜産物を消費者の皆さまにお届けしています。</p>	<p>貯金業務・融資業務・為替業務・国債の販売や投資信託の取扱等を行っており、信頼できるサービスを提供しています。</p>	<p>組合員や地域の皆さまを不慮の災害から守り、その家族の暮らしを守ることを最大の目的とし、生命・建物・火災・自動車共済などの共済商品を取り扱っています。</p> <p>JA共済の健全性については、平成27年度のJA共済連のソルベンシー・マージン比率(支払余力)において経営の健全な水準とされる200%を大きく超える797.7%を確保しています。</p>
<p>高齢者福祉事業</p> <p>組合員とそのご家族、地域住民が老後を安心して過ごせるとともに、家族介護者の負担軽減を目的としてデイサービス(日帰り介護)などの各種サービスを提供しています。</p>		
<p>営農・生活相談事業</p> <p>営農・生活指導はもとより、健康相談、法務・税務相談や土地の有効利用、さらには宅地供給事業として資産安全管理と適正な土地利用へとつながる資産管理相談を行っており、これらの総合的な相談機能により、暮らし全般にわたってサポートしています。</p>		

…など様々な事業・サービスを提供しております。



1. 経営概要

収益性

■ 経営の状況

事業利益	14億28百万円
経常利益	18億59百万円
当期剰余金	14億78百万円

J Aいるま野は、地域の皆さまからご信頼を頂き、貯金残高は1兆1,529億円となりました。また、貸出残高につきましては3,861億円となり、皆さまからお預かりした大切な財産を安全性と流動性を重視して資金運用しております。

■貯金・貸出金等

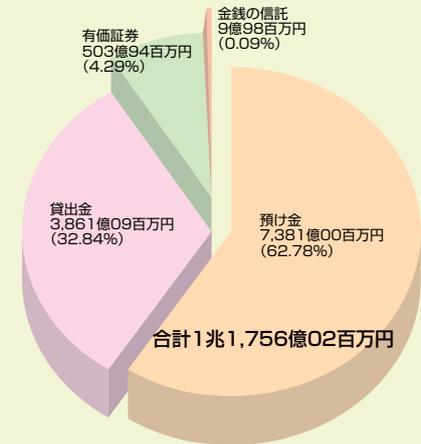
貯 金…… 1兆1,529億15百万円
 貸 出 金……… 3,861億09百万円
 預 け 金……… 7,381億00百万円
 有価証券……… 503億94百万円
 金銭の信託……… 9億98百万円

(単位：百万円)

	H27.9月期	H28.3月期	H28.9月期
貯 金	1,112,367	1,120,448	1,152,915
貸 出 金	381,942	388,281	386,109
預 け 金	697,116	703,542	738,100
有価証券	58,195	52,005	50,394
金銭の信託	980	—	998

注：貸出金については、貸付留保金を控除した数値としています。

■資金運用構成



J Aいるま野では、貸出金以外にも預け金や有価証券で運用し、いつでも使える安全な余裕資金を豊富に保有しており、資金繰りは安定しています。

■有価証券等の時価情報

有価証券等の運用にあたっては、中長期貯金等の金利リスクの軽減および安定収益の確保を基本として、安全性を重視した債券運用を中心にポートフォリオ（分散運用の組み合わせ）の構築を図っています。

●有価証券（満期保有）で時価のあるもの (単位：百万円)

種 類	平成28年9月期				
	貸借対照表計上額	時 価	評価差額	うち益	うち損
国 債	999	1,070	70	70	—
地方債	3,895	4,161	266	266	—
政府保証債	2,299	2,333	33	33	—
社 債	2,098	2,204	105	105	—
合 計	9,294	9,770	475	475	—

●有価証券（その他保有）で時価のあるもの (単位：百万円)

種 類	平成28年9月期				
	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
債 券	34,801	36,555	1,753	1,803	50
国 債	11,604	12,373	769	769	0
地方債	8,598	9,109	511	511	—
政府保証債	2,399	2,548	148	148	—
金融債	1,000	1,000	0	0	—
社 債	11,199	11,522	323	373	50
株 式	1,084	909	-174	12	187
受益証券	3,663	3,634	-29	79	108
合 計	39,550	41,099	1,549	1,895	346

●金銭の信託(その他保有)で時価のあるもの

(単位：百万円)

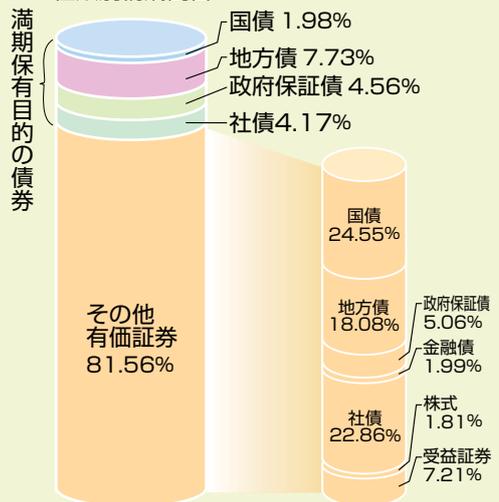
種 類	平成28年9月期				
	取得原価(償却原価)	貸借対照表計上額	評価差額	うち益	うち損
指定金外信託	1,000	998	-1	8	10
合 計	1,000	998	-1	8	10

注1:時価は、期末日における市場価格等に基づいております。
 注2:平成28年9月期における売買目的有価証券はありません。

保有有価証券

503億94百万円 (貸借対照表計上額)

<種類別構成割合>





2. 不良債権の状況

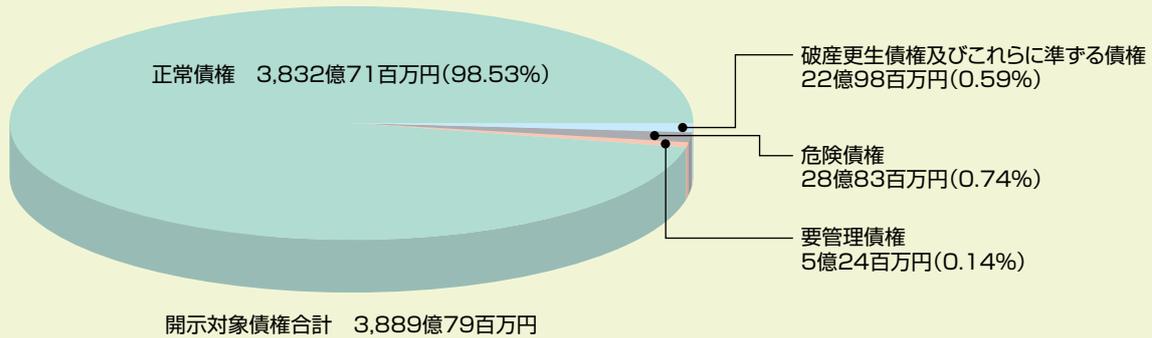
健全性

JAいるま野は、経営の透明性を高め、その健全性と安全性をご理解いただくために、金融再生法に基づく債権の状況を開示するとともに、不良債権に対する保全状況を開示いたします。

金融再生法による開示対象債権の内訳

(単位:百万円、%)

債権区分と保全状況	平成28年3月期	平成28年9月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,404	2,298
危険債権	2,784	2,883
要管理債権	917	524
小計(A)	6,106	5,707
上記債権の担保保証の額(B)	4,132	3,910
上記債権に対する貸倒引当金の額(C)	1,844	1,755
上記債権に対する保全率(B+C)／(A)	97.87%	99.26%
正常債権	384,291	383,271
開示対象債権合計	390,398	388,979



JAいるま野では、資産の健全性を高めるため半期毎に厳格な資産の自己査定を実施し、必要な償却・引当等の処理を実施しています。

金融再生法開示基準による不良債権の総額は57億7百万円となっており、担保・保証等による回収見込額とそれらでカバーされていない部分に対し引き当てた貸倒引当金等とで必要十分な保全を図っております。

用語 の 説明

●破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産・会社更生・民事再生等の事由により、経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

●危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性の高い債権です。

●要管理債権

3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権からなります。

○3ヶ月以上延滞債権／元金又は利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として3ヶ月以上延滞している貸出金のうち、「破産更生債権等」「危険債権」を除いた貸出債権です。

○貸出条件緩和債権／経済的困難に陥った債務者の経営再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権のうち、「破産更生債権等」「危険債権」「3ヶ月以上延滞債権」を除いた貸出債権です。

●正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」「危険債権」「要管理債権」以外の債権です。

3. 自己資本比率（健全経営のバロメーター）

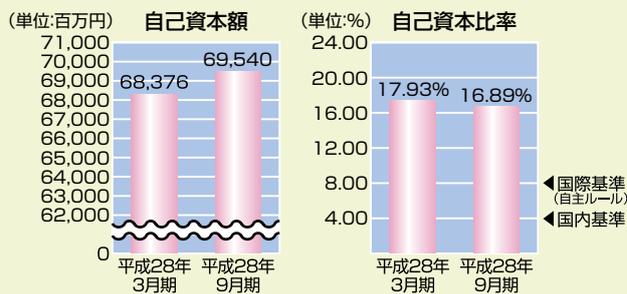
健全性
安全性

自己資本比率とは、経営の健全性を示す指標の一つで、JAが保有する貸出金や有価証券等のリスクがある資産に対して出資金などの自己資本がどれくらいあるかを示し、自己資本比率は数字が高いほど、一般的に「体力」があると考えられています。

自己資本比率……16.89%(単体)

自己資本額……695億40百万円

自己資本額のうち出資金の額…60億12百万円



国内基準	国際基準
4%以上	8%以上
海外に拠点を有さず、国内だけで事業を行う金融機関に求められる基準	海外に拠点を有する金融機関に求められる基準

※各金融機関は、該当する基準をクリアすることを求められています。

- JAは自主ルールにより基準を8%以上と独自に健全性のハードルを高くしています。
- 平成28年9月期の計数は、仮決算結果に基づき、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年3月28日金融庁・農林水産省告示第2号)に準拠して算出していますが、半期利益については、前年度実績の2分の1の外部流出予定額を控除して自己資本の額とし、オペレーショナルリスク相当額は平成28年3月期の計数を用いて算出しています。

4. JAバンク・セーフティネット

安心
安全性

JAバンクのペイオフへの備えには、「貯金保険制度」と「破綻未然防止システム」という二重のセーフティネットがあります。JAバンクでは、経営の健全性について行政が定めているものより厳しい自己基準を設定するなど、より安全な金融機関として信頼を得るために努力しています。

貯金保険制度（国の公的制度）

平成17年4月以降は、当座貯金や利息の付かない普通貯金等は「決済用貯金」として全額保護され、定期貯金や利息のつく普通貯金等は、貯金者1人当たり、元本1,000万円とその利息が保護されます。

貯金等の保護の内容

貯金等の分類	平成17年4月から
決済用貯金 当座貯金・無利息の普通貯金等	全額保護（恒久措置）
一般貯金等 有利息の普通貯金・定期貯金・定期積金等	元本の合計1,000万円までとその利息等を保護
外貨貯金・譲渡性貯金等	保護対象外

破綻未然防止システム（JAバンク独自のシステム）

- 経営の健全性にかかる自主基準の設定
- 経営状況のチェックによる問題点の早期発見と改善
- 「JAバンク支援基金」による資本注入や資金援助

農林中央金庫の格付

格付け機関名	格付け種類	ランク
ムーディーズ社	長期債務格付け	A1
	短期債務格付け	P-1
スタンダード & プアーズ社	長期債務格付け	A
	短期債務格付け	A-1

平成28年10月末現在



5. JAいるま野の活動報告

■西武ライオンズに「いるま野産コシヒカリ」を贈呈



飯能市民球場で4月に開催されたイースタン・リーグ公式戦、埼玉西武ライオンズvs東京ヤクルトスワローズにおいて、試合で活躍した両軍の優秀選手に対して「いるま野産コシヒカリ」100kgが贈呈されました。

この活動は、地元・所沢市に本拠地を置く埼玉西武ライオンズの選手たちに美味しい地元産米をたくさん食べて大活躍してもらいたいという願いと共に、いるま野産米のPRと消費拡大運動の一環として毎年実施されています。

■コスト低減に向けてオリジナル生産資材が誕生

4月よりほうれん草の出荷用段ボールが「とれ蔵」デザインにリニューアルされました。

これまで地域によって異なっていた2種類の段ボールの規格を統一したもので、これによって産地競争力の強化と生産者の出荷コスト低減を図ると共に、いるま野農産物の更なる認知度獲得を目指しています。

また、8月には生産コストの低減を目指して、「とれ蔵」デザインを施したいるま野オリジナル肥料「いるま野専用腐植酸化成888」が誕生。

こうした取り組みにより、JAいるま野の基本方針の1つである「農業者の所得増大、農業生産拡大への挑戦」を進めています。



@torezou



いるま野農業協同組合

〒350-1105 埼玉県川越市今成2-29-4
TEL.049-224-1607(代) FAX.049-224-1617
ホームページ : <http://www.ja-irumano.or.jp/>



JAいるま野グループ

株式会社 いるま野サービス

住所：埼玉県入間市小谷田4-6-11
電話：04-2941-6231
ホームページ： <http://www.irumano.co.jp/>

株式会社 いるま野アグリ

住所：埼玉県富士見市みどり野北76
電話：049-254-3119
ホームページ： <http://www.ja-irumano.or.jp/irumanoagri/>

1. 農業協同組合において中間決算は法定化されていないため、当組合では本決算に準じた手続により仮決算を実施し、自主的に開示しております。
2. 本誌に掲載している計数は単位未満を切り捨て表示にしておりますので合計と一致しない場合があります。
3. 記載金額が表示単位未満の場合は「0」、期末残高がない場合は「-」で表示しております。

